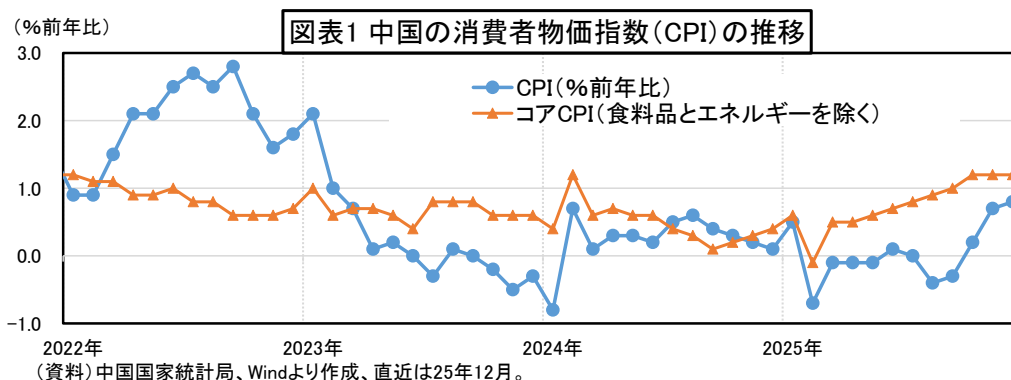
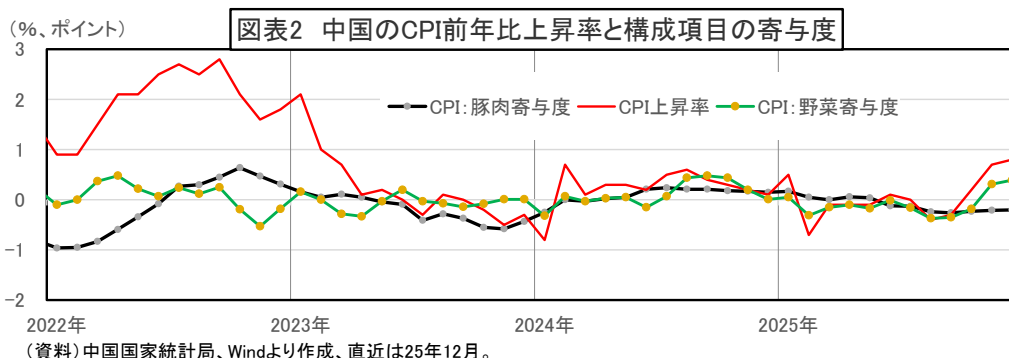


### (中国) 低インフレ状態が継続も物価の下落圧力は緩和

中国では低インフレ状態が続いているものの、物価の下落圧力はやや和らいだとみられる。国家統計局が発表した 2025 年 12 月の消費者物価指数(CPI)は前年比 0.8%と 11 月(同 0.7%)から上昇率が拡大し、3 か月連続のプラスとなった(図表 1)。CPI の構成項目をみると、食料品価格は同 1.1%と 11 月(同 0.2%)からプラス幅がさらに拡大した。



食料品のなかでは、野菜価格が同 18.2%と、11 月(同 14.5%)から急騰が続き、CPI の上昇率(前掲 0.8%)への寄与度は 0.39 ポイントとなった(図表 2)。これが CPI 上昇率の拡大をもたらす主因である。一方、豚肉価格は同▲14.6%と下落傾向が続き、寄与度は▲0.20 ポイントとなった。ガソリン価格も同▲8.4%と 11 月(同▲7.5%)から下落幅がさらに拡大した。価格変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア CPI は同 1.2%と 3 か月連続で 1%以上を維持した(図表 1)。



また、生産者物価指数(PPI)は前年割れが続いているが、マイナス幅は縮小傾向にある。12 月の PPI は前年比▲1.9%と 11 月(同▲2.2%)から下落幅が縮小した。前月比も小幅ながら 3 か月連続でのプラスとなった。今後の物価については、内需拡大策の効果や過度な値下げ競争(内巻)の抑制への取組みなどにより、CPI の前年比上昇率は回復傾向が続くと見込まれる一方、PPI が前年比下落の局面から脱却するには、しばらく時間を要するであろう。